様式第１号（第８条、第９条関係）

事業者行動計画書~~（変更計画書）~~

2020 年 7 月　30 日

（宛先）

滋賀県知事

提出者

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）

滋賀県米原市梅ケ原 2481 番地

氏名（法人にあっては、名称および代表者の氏名）

ヤンマーホールディングス株式会社

技術本部長　川 建　 治

滋賀県低炭素社会づくりの推進に関する条例〔第20条第３項・~~第20条第４項~~ ~~第22条第１項・第22条第２項において準用する同条例第20条第４項~~〕の規定に基づき、事業者行動計画を策定（変更）したので、提出します。

事業者の氏名（法人にあっては、名称および代表者の氏名）	**ヤンマーホールディングス株式会社** **技術本部長　川建　治**
事業者の住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	**〒521-8511　　滋賀県米原市梅ケ原 2481 番地**

１　事業所の概要

事業所の名称	**ヤンマーホールディングス株式会社　技術本部**					
事業所の所在地	**〒521-8511　　滋賀県米原市梅ケ原 2481 番地**					
主たる事業	細分類番号	**７**	**１**	**１**	**２**	**工学研究所**
該当する事業者の要件	☑　原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロリットル以上の事業所を県内に有する事業者					
	□　従業員数が21人以上であって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間 3,000 トン以上の事業所を県内に有する事業者					
	□　任意提出事業者					

２　計画の内容

計画の内容	別添のとおり

注　用紙の大きさは、日本工業規格Ａ列４番とします。

標準様式第１号

（第１面）

１　計画期間

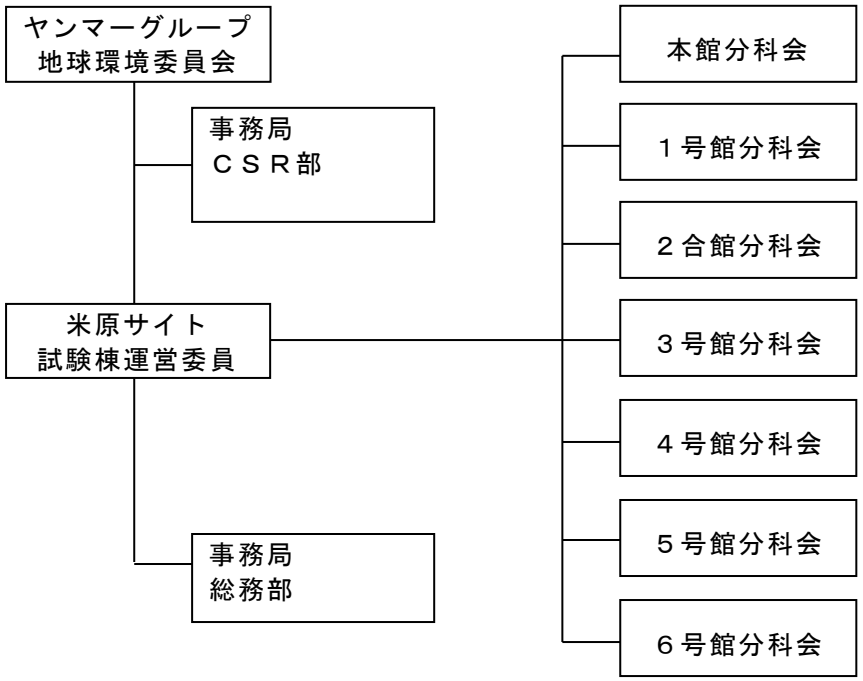
計画期間	2020　年度　～　2024　年度

２　低炭素社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

ヤンマー中央研究所では、エンジン排気のクリーン化や低騒音・低振動化をはじめとする製品の環境対応の高度化に、一貫して取り組んできました。環境負荷の低減に貢献する製品を追求し、供給していくことで、循環型社会の構築に貢献します。

研究開発分野	項　　目	内　　容
エンジン技術	低エミッション	エンジンの燃焼改善
		電子制御技術
		排ガス後処理装置
システム技術	システム効率向上	冷媒サイクル技術
		制御技術
	ＧＨＰ用ガスエンジン	燃焼、排気後処理、エンジン制御技術
	エンジンの燃費低減	燃焼改善、吸排気損失低減など
	低騒音・低振動	高度制振・遮音技術、構造最適化技術
	新エネルギー活用	バイオディーゼル燃料利活用技術
		木質バイオマス発電
農業技術	エコロジー＆エコノミー イージーオペレーション	Ｉ・ＨＭＴ （無段変速トランスミッション）
	移植・収穫技術	移植・収穫の高速化技術
応用技術	建設機械関連／流通機器関連／トランスミッション関連／ マリン関連／環境分野関連	

３　低炭素社会づくりに係る取組に関する推進体制



備考　組織図を記載し、役割分担および責任者の役職を記入してください。

４　これまでに取り組んできた低炭素社会づくりに係る取組

2000 年の研究所竣工当時から、省エネ設備を取り入れている。

HF蛍光灯（高調波点灯形蛍光灯）を採用している。（従来の蛍光灯より-30%節電）

送風ファンの一部に、インバーターを用いている。

空調設備に、ガスヒートポンプ（GHP）を採用している。（電気ヒーポンに比べ-90%節電）

トイレ照明は、人感センサーによる自動点滅とし、無駄な点灯を防いでいる。

トイレ小便器に自動水栓を採用。

タイマー制御で、昼休み時間帯は、事務所内の照明を自動消灯している。

外灯の点灯時間をタイマー制御し、夜間になると、順次消灯している。

冷却水用クーリングタワーの台数制御運転の実施。

雨水を中水として再利用。

電気給湯器の稼働を、ウィークリータイマーで制御し、休日は運転しない。

過去省エネへの取り組み。

常用発電機の停止。（燃料A重油使用量の低減）

照明の一部間引き。（トイレ、廊下、外灯）

更衣室の照明を人感センサー仕様に変更。

修景用滝ポンプの間欠運転実施。（1時間ごとに ON、OFF）

手洗い用電気温水器の使用期間を、冬場のみに制限。

電気給湯器の設定温度を、20℃下げた。（95℃→75℃）

アイドリングストップを周知する看板、表示の設置。

健常者によるエレベーターの使用を制限。

飲料自動販売機を、ヒートポンプ方式採用の省エネタイプに更新。

遮熱フィルム貼り付けによる、室内温度上昇の低減。

新築建屋については、すべて LED 照明を採用。

（2011 年度―新保安所、2012 年度― 5 号館、2014 年度― 6 号館）

試験棟の水銀灯（400W）や総務室の蛍光灯を LED 照明器具に更新。

稼働時間が長いＧＨＰについて、高効率タイプのＧＨＰに更新。

５　自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO_2排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	取組の内容	実施スケジュール
1	設備導入対策	本館事務所メイン照明の LED 化。	2020 年度～
2	設備導入対策	空調設備は、すべて高効率ＧＨＰとする。	2020 年度～
3	設備導入対策	常夜灯を中心に、照明設備のＬＥＤ化を進める。	2020 年度～
4	設備導入対策	電力の見える化をさらに細分化し、無駄な電力消費を見つける。	2020 年度～
5	運用での対策	不使用時、パソコン用モニターの消灯徹底。	2020 年度～
6			
7			
8			

(2) エネルギー起源CO_2以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	取組の内容	実施スケジュール
1			
2			
3			

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

上記（１）の取組等により、2019 年度を基準年とし、以下の数値目標の達成を目指します。

原単位「$\dfrac{\text{温室効果ガス排出量}}{\text{建物延床面積×在籍人数}}$」で、前年比　1.04%以上の削減を目指す。

【原単位の考え方】
研究所内の事務棟、試験棟エリアの延床面積と、研究所で業務をおこなう人数の積を分母とする。
実績と目標の対比を適切におこなうため、計画期間中の温室効果ガス排出量の算定に当たっては、電気のCO_2排出係数は、基準年度の係数に固定して算出する。

7　その他の低炭素社会づくりに向けた取組

	取組項目	取組の内容および当該取組により 達成しようとする目標	実施スケジュール
1	低燃費車両の導入	社有車両を、燃費性能にすぐれた車両に更新する。	2020 年度～
2	廃棄物発生の抑制	有価物と廃棄物の分別を徹底し、廃棄物発生量を抑制する。	2020 年度～
3	電力消費量低減	リースアップで更新するパソコンについて、省エネ機を導入する。	2020 年度～
4			
5			
6			
7			
8			